

香川高等専門学校	開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	数学概論Ⅲ			
科目基礎情報							
科目番号	1051	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1				
開設学科	情報工学科(2018年度以前入学者)	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	後期:1				
教科書/教材	「新応用数学」(大日本図書)						
担当教員	中山 精壽						
到達目標							
複素関数の解析学、すなわち複素関数論は、理工学において広い応用をもつことから、基礎的な教養として一度学んでおく必要がある。本科目では、実関数の積分への応用を主要なテーマとして、複素関数論への入門となる内容を学習する。その学習を通して、計算力の強化および数学的論理思考能力の養成を目指す。							
ルーブリック							
評価項目1 複素数の基本的な計算ができる。	理想的な到達レベルの目安 複素数の基本的な計算ができる。	標準的な到達レベルの目安 複素数の基本的な計算がある程度できる。	未到達レベルの目安 複素数の基本的な計算ができない。				
評価項目2 基本的な複素関数の微積分が計算できる。	基本的な複素関数の微積分が計算できる。	基本的な複素関数の微積分がある程度計算できる。	基本的な複素関数の微積分が計算できない。				
評価項目3 コーシーの積分定理を理解できる。	コーシーの積分定理を理解できる。	コーシーの積分定理をある程度理解できる。	コーシーの積分定理を理解できない。				
評価項目4 留数の基本的な計算ができる。	留数の基本的な計算ができる。	留数の基本的な計算がある程度できる。	留数の基本的な計算ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。小テストやレポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。						
授業の進め方・方法	指定教科書に沿って学習内容を解説していく講義形式。小テストやレポート作成を通して学習内容の定着を図る。各自の自主的な予習復習は必須。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題を課す。						
注意点	時間数が少ないので、できる限り独立で多くの問題を解き、添削を受けたり質問をしたりすることを期待する。オフィスアワーは火曜日。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	複素数の四則演算、2次方程式や高次方程式の求解	複素数の基本的な計算ができる。D1:2			
		2週	複素数平面と四則演算、極形式・複素数のべき乗	複素数平面と四則演算との関係を理解する。D1:3			
		3週	ドモアブルの定理、1のべき根	複素数平面と四則演算との関係を理解する。D1:3			
		4週	指数関数や三角関数、正則関数	基本的な正則関数の計算ができる。D1:2			
		5週	コーシー・リーマンの微分方程式、複素関数の複素微分	基本的な正則関数の微分が計算できる。D1:2			
		6週	曲線の媒介変数表示、実変数複素関数の微積分	基本的な複素関数の微積分が計算できる。D1:2			
		7週	複素積分の定義	基本的な複素関数の微積分が計算できる。D1:2			
		8週	多項式や有理式の一周期積分、コーシーの積分定理と積分公式	コーシーの積分定理を理解する。D1:3			
	4thQ	9週	グルサの公式	グルサの定理を理解する。D1:3			
		10週	極・留数・留数定理	留数の基本的な計算ができる。D1:2			
		11週	有理式の留数定理	留数の基本的な計算ができる。D1:2			
		12週	三角関数の有理式の実積分への応用	複素積分を利用して実積分を計算できる。D1:3			
		13週	複素関数の評価、複素積分の評価	複素積分を利用して実積分を計算できる。D1:3			
		14週	有理式の無限積分の計算	複素積分を利用して実積分を計算できる。D1:3			
		15週	三角関数を含む無限積分の計算	複素積分を利用して実積分を計算できる。D1:3			
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0